



オリックス生命の経営内容 2009年度(2010/3)報告



オリックス生命保険株式会社

2010年5月21日

オリックス生命保険株式会社の経営内容について

1. 米国会計基準(SEC基準)による主要な経営指標

(単位:百万円)

| | 2008年 | | 2009年 | | 2010年 | |
|---------------------|--------------------|----------|--------------------|----------|---------------------|----------|
| | 3月期 | 対前 年比 | 3月期 | 対前 年比 | 3月期 | 対前 年比 |
| 営業収益 | 136,802 | 99% | 130,513 | 95% | 120,205 | 92% |
| 保険料収入 (1) | 120,103 | 99% | 114,591 | 95% | 103,876 | 91% |
| 資産運用収益 | 14,161 | 95% | 13,794 | 97% | 15,046 | 109% |
| その他収益 | 2,538 | 95% | 2,128 | 84% | 1,283 | 60% |
| 営業費用 | 129,289 | 101% | 134,332 | 104% | 109,758 | 82% |
| 責任準備金繰入額等 (2) | 87,021 | 95% | 75,904 | 87% | 63,888 | 84% |
| 資産運用費用 (3) | 5,358 | 255% | 17,052 | 318% | 6,781 | 40% |
| その他費用 | 36,910 | 108% | 41,376 | 112% | 39,089 | 94% |
| 税引前当期純利益 (4) | 7,513 | 69% | 3,819 | - | 10,447 | - |
| 法人税等 | 2,667 | 65% | 1,164 | - | 3,876 | - |
| 当期純利益 (4) | 4,846 | 72% | 2,655 | - | 6,572 | - |
| 総資産 (5) | 605,101 | 98% | 566,103 | 94% | 548,549 | 97% |
| 保険契約債務 | 486,379 | 99% | 442,884 | 91% | 409,957 | 93% |
| 株主資本 (6) (払込資本金) | 72,451 (15,000) | 98% | 89,667 (27,500) | 124% | 100,355 (27,500) | 112% |

当社では、会計基準として米国証券取引委員会による決算方式(SEC基準)と日本の会社法基準とを併せて採用し、経営管理の指標としております。会社法基準による主要な経営指標は4ページをご参照ください。
上記(1)~(6)につきましては、下記をご参照ください。

2010年3月期は、世界的な金融危機と信用不安から運用環境が回復したことから、資産運用費用が大幅に減少しました。これにより、米国会計基準による当期純利益は6,572百万円と大幅増益になりました。

【営業収益】

- (1) 「保険料収入」は前年度から9%減少し、103,876百万円となりました。これは当社の販売主力商品が、法人向け逓増定期保険や養老保険などの貯蓄性商品から個人向けの定期保険や医療保険へとシフトし、保有契約に占める貯蓄性商品の割合が低下していることが理由です。

【営業費用】

- (2) 「責任準備金繰入額等」は前年度から16%減少し、63,888百万円となりました。この理由は(1)と同様で、貯蓄性商品が解約や満期により減少しているためです。
- (3) 「資産運用費用」は前年度と比べ大幅に減少し、6,781百万円となりました。主な要因は、貸倒引当金繰入額の減少、有価証券売却損および有価証券評価損の減少です。

【当期純利益】

- (4) 資産運用費用の減少により「税引前当期純利益」は10,447百万円、「当期純利益」は6,572百万円となりました。

【総資産】

- (5) 「総資産」は前年度より3%減少し、548,549百万円となりました。

【株主資本】

- (6) 「株主資本」は12%増加し、100,355百万円となりました。

2. 営業数値

2006年より、当社は主力商品を法人向け逡増定期保険や養老保険などの貯蓄性商品から、個人向けの定期保険や医療保険などの保障性商品へシフトしています。

2010年3月期は主力商品の「医療保険CURE」、「医療保険CURE Lady」が好調であったことから、新契約件数は前年度より15%増加しました。保有契約高では、保障性商品の割合が76%を占めるようになりました。

なお、「医療保険CURE」や「医療保険CURE Lady」には死亡保険金がないため、契約が増加しても保有契約高には反映されません。

【2-1. 個人保険の状況】

| | | 2008年 | | 2009年 | | 2010年 | |
|------|---------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|
| | | 3月期 | 対前 年比 | 3月期 | 対前 年比 | 3月期 | 対前 年比 |
| 新契約 | 件数 | 185,308 | 139% | 215,206 | 116% | 248,153 | 115% |
| | うち保障性商品 | 180,419 | 140% | 211,369 | 117% | 242,722 | 115% |
| | 金額 | 587,248 | 75% | 514,126 | 88% | 454,523 | 88% |
| | うち保障性商品 | 555,043 | 92% | 500,447 | 90% | 439,367 | 88% |
| 保有契約 | 件数 | 599,332 | 125% | 732,224 | 122% | 895,646 | 122% |
| | うち保障性商品 | 524,301 | 133% | 672,629 | 128% | 844,705 | 126% |
| | 金額 | 4,248,199 | 100% | 4,071,805 | 96% | 3,932,111 | 97% |
| | うち保障性商品 | 2,639,062 | 112% | 2,831,664 | 107% | 2,991,581 | 106% |

保障性商品とは、主に定期保険、がん保険、医療保険を指します。

【2-2. 第三分野保険の年換算保険料】

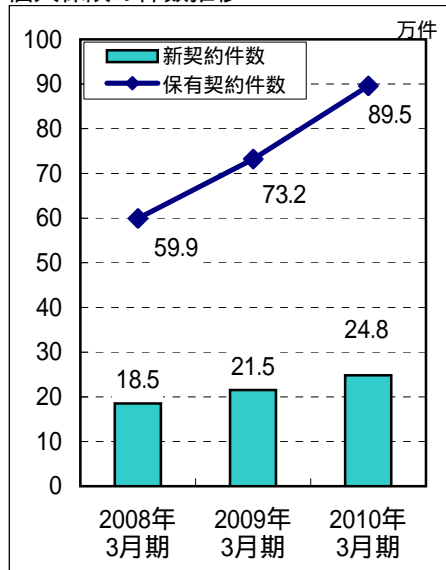
(単位：百万円)

| | 2008年 | | 2009年 | | 2010年 | |
|------|--------|----------|--------|----------|--------|----------|
| | 3月期 | 対前 年比 | 3月期 | 対前 年比 | 3月期 | 対前 年比 |
| 新契約 | 11,864 | 177% | 11,856 | 100% | 11,899 | 100% |
| 保有契約 | 28,806 | 128% | 34,647 | 120% | 40,268 | 116% |

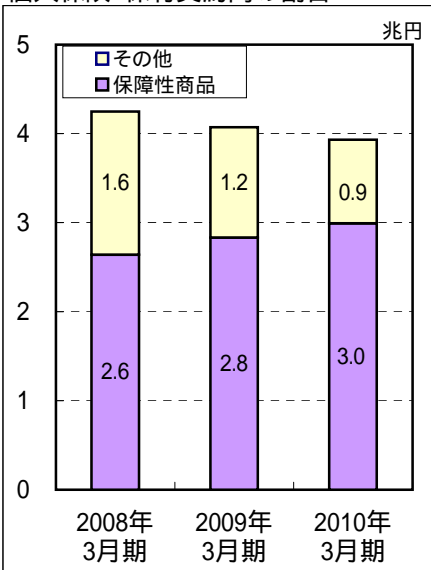
年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。

医療保障給付(入院給付、手術給付等)、生前給付保障給付(特定疾病給付、介護給付等)、保険料払込免除給付(障害を事由とするものは除く。特定疾病罹患、介護等を事由とするものを含む)等に該当する部分の年換算保険料を計上しています。

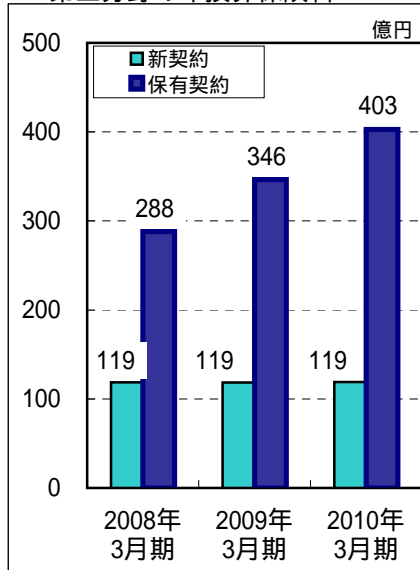
個人保険の件数推移



個人保険・保有契約高の割合



第三分野の年換算保険料



3. 収益管理状況

- (1) 会計基準として、米国証券取引委員会による決算方式(SEC基準)と日本の会社法基準とを併せて採用し、経営管理の指標としております。
- (2) SEC基準において、責任準備金繰入額の計算を含めた月次決算を行う等により、会社の財政状況を迅速かつ正確に把握しております。

4. 株主の状況

当社の株主は以下のとおりであり、実質的にはオリックス(株)の100%子会社であります。

| 出資者 | 持株比率 | 備考 |
|-----------------|-------|----------------|
| オリックス株式会社 | 95.6% | |
| オリックス・インテリア株式会社 | 4.4% | オリックスの出資比率100% |

5. 格付け

当社の格付けは以下のとおりです。

| | | |
|------------------|---------|------|
| 格付投資情報センター(R&I) | 保険金支払能力 | 「A」 |
| スタンダード&プアーズ(S&P) | 保険財務力 | 「A-」 |

(2010年5月21日現在)

6. 責任準備金の積立状況

SEC基準では、米国における一般に認められた会計原則に基づいて積み立てております。
会社法基準では、保険業法に基づいて標準責任準備金を積み立てております。

7. 平均予定利率

2010年3月期の平均予定利率は、2009年3月期の平均予定利率2.06%から低下し、2.04%となりました。

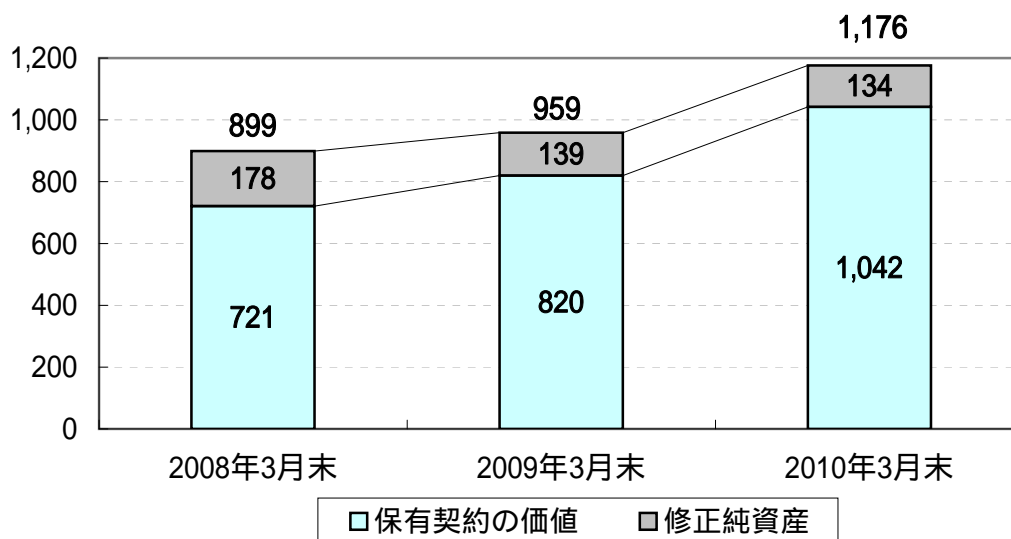
8. 利回り

運用環境の回復に伴い、SEC基準の運用利回りは、2009年3月期の0.63%から2010年3月期は1.74%になりました。また、会社法基準の運用利回りにおいても、1.05%から1.91%になりました。

9. エンベディッド・バリュー(EV)

2010年3月末のEVは、前年末の959億円から217億円増加して1,176億円となりました。
詳しくは、「平成22年3月末エンベディッド・バリューについて」をご覧ください。
当社ホームページ(http://www.orix.co.jp/ins/koho/disclose/2009ev_y.pdf)でご覧いただけます。

(単位:億円)



10. 会社法ベースによる財務指標

主要な経営指標

(単位：百万円)

| | 2008年 | | 2009年 | | 2010年 | |
|------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| | 3月期 | 対前 年比 | 3月期 | 対前 年比 | 3月期 | 対前 年比 |
| 経常収益 | 141,446 | 94% | 162,323 | 115% | 145,019 | 89% |
| 保険料収入 | 120,615 | 99% | 113,041 | 94% | 103,902 | 92% |
| 資産運用その他収益 | 20,830 | 72% | 49,281 | 237% | 41,116 | 83% |
| 経常費用 | 144,011 | 101% | 183,397 | 127% | 147,665 | 81% |
| 保険金等支払金 | 106,383 | 92% | 134,179 | 126% | 110,369 | 82% |
| その他費用(1) | 37,628 | 140% | 49,217 | 131% | 37,295 | 76% |
| 経常損失 | 2,565 | - | 21,074 | - | 2,645 | - |
| 特別損失 | 491 | - | 98 | - | 32 | - |
| 契約者配当準備金繰入額 | 589 | | 566 | | 411 | |
| 税引前当期純損失 | 3,646 | - | 21,738 | - | 3,089 | - |
| 法人税等合計 | 1,228 | | 4,770 | | 44 | |
| 当期純損失 | 2,418 | - | 26,508 | - | 3,133 | - |
| 資産の部 合計 | 557,278 | 99% | 507,250 | 91% | 486,930 | 96% |
| 運用資産 | 503,691 | 92% | 483,168 | 96% | 480,195 | 99% |
| その他 | 53,587 | 267% | 24,082 | 45% | 6,735 | 28% |
| 負債の部 合計 | 542,739 | 101% | 501,681 | 92% | 478,006 | 95% |
| 責任準備金(含む危険準備金) | 514,255 | 101% | 481,085 | 94% | 456,533 | 95% |
| その他 | 28,483 | 94% | 20,595 | 72% | 21,472 | 104% |
| 純資産の部 合計(2) | 14,539 | 54% | 5,569 | 38% | 8,924 | 160% |
| 資本金 | 15,000 | | 27,500 | | 27,500 | |
| 資本剰余金 | 1,204 | | 13,704 | | 13,704 | |
| 利益剰余金 | 1,259 | | 27,767 | | 30,901 | |
| その他有価証券評価差額金 | 406 | | 7,867 | | 1,378 | |
| 基礎利益(3) | 2,608 | - | 8,352 | - | 1,440 | - |
| ソルベンシー・マージン比率(4) | 1,217.0% | | 1,247.4% | | 1,596.0% | |
| 実質純資産 | 60,180 | 81% | 53,813 | 89% | 54,672 | 102% |

(注) 責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金であり、積立方式は標準責任準備金の対象契約については標準責任準備金、その他の契約については、平準純保険料式にて積立をしております。

【その他費用】

- (1) 「その他費用」のうち5,615百万円を資産運用費用が占め、前年度19,318百万円から大幅に減少しました。その結果、経常損失、当期純損失が減少しました。個別貸倒引当金繰入額、有価証券売却損、有価証券評価損については、6ページをご参照ください。

【純資産の部 合計】

- (2) 信用不安の回復に伴う保有債券の時価上昇等により「その他有価証券評価差額金」が大幅に改善し、「純資産の部 合計」は前年度末の55.6億円から89.2億円に増加しました。

【基礎利益】

- (3) 「基礎利益」は、主として資産運用費用の減少により 1,440百万円となりました。

【ソルベンシー・マージン比率】

- (4) ソルベンシー・マージン比率は、その他有価証券の含み損減少および資産運用リスク相当額の減少により、前年度末から348.6ポイント上昇し1,596.0%となりました。詳細は7ページをご参照ください。

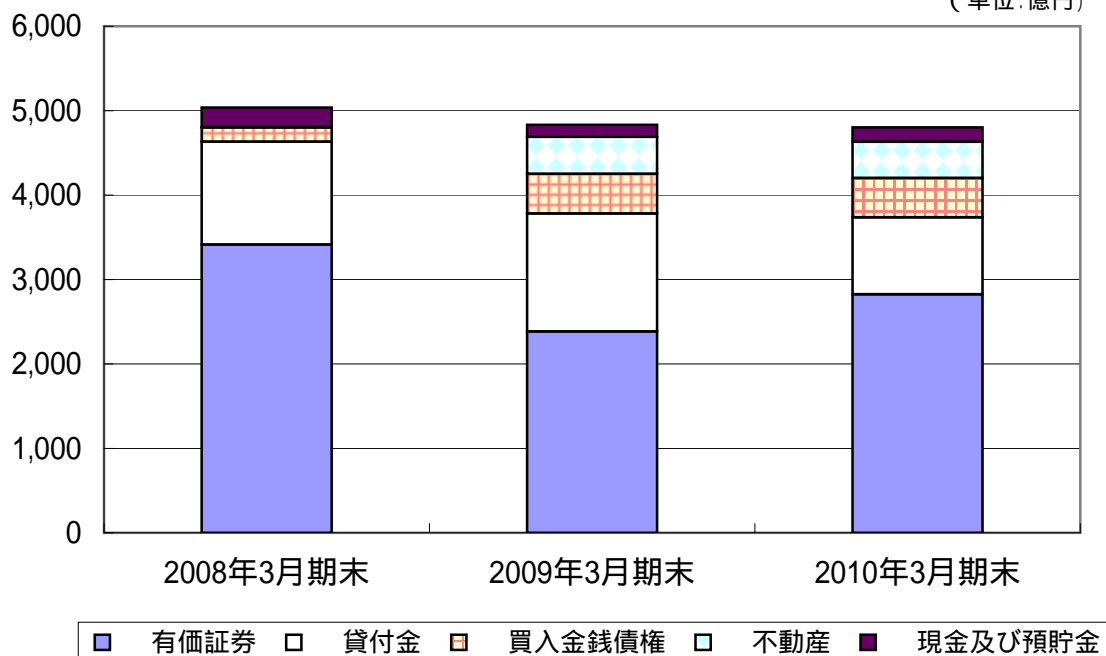
資産運用状況

(単位:百万円)

| | 2008年 | | 2009年 | | 2010年 | |
|---------|---------|------|---------|------|---------|------|
| | 3月期末 | 占率 | 3月期末 | 占率 | 3月期末 | 占率 |
| 有価証券 | 341,465 | 68% | 238,466 | 49% | 282,497 | 59% |
| 貸付金 | 121,886 | 24% | 139,749 | 29% | 91,232 | 19% |
| 買入金銭債権 | 16,885 | 3% | 47,063 | 10% | 46,502 | 10% |
| 不動産 | 104 | 0% | 43,766 | 9% | 42,833 | 9% |
| 現金及び預貯金 | 23,350 | 5% | 14,122 | 3% | 17,129 | 4% |
| 運用資産 | 503,691 | 100% | 483,168 | 100% | 480,195 | 100% |

資産の構成

(単位:億円)



総資産は1ページ(5)と同様、会社法基準においても減少傾向にあります。

< 当社の運用方針 >

長期安定した運用収益の確保と負債特性に応じた運用を目指しています。2010年3月期は、公社債をポートフォリオの核として残高を増やし、貸付金及び外国証券の残高を減らしました。

< 運用実績の概況 >

2010年3月期末の総資産は、前年度末に比べ203億円減少し4,869億円となりました。総資産に占める構成は、公社債50.8%、貸付金18.7%、買入金銭債権9.6%、不動産8.8%、外国証券6.4%となりました。

2010年3月期の資産運用収益は150億円、資産運用費用は56億円となり、ネットの運用収益は94億円となりました。ネットの資産運用収益を基礎に計算した総資産利回りは1.91%となりました。

経常利益等の明細(基礎利益)

(単位:百万円)

| | 2009年 3月期 | 2010年 3月期 |
|---------------------|--------------|--------------|
| 基礎利益 A | 8,352 | 1,440 |
| キャピタル収益 | 2,699 | 2,474 |
| 金銭の信託運用益 | - | - |
| 売買目的有価証券運用益 | - | - |
| 有価証券売却益 | 2,694 | 2,432 |
| 金融派生商品収益 | - | 42 |
| 為替差益 | 5 | - |
| その他キャピタル収益 | - | - |
| キャピタル費用 | 10,196 | 878 |
| 金銭の信託運用損 | - | - |
| 売買目的有価証券運用損 | - | - |
| 有価証券売却損 | 4,355 | 279 |
| 有価証券評価損 | 5,841 | 482 |
| 金融派生商品費用 | - | - |
| 為替差損 | - | 115 |
| その他キャピタル費用 | - | - |
| キャピタル損益 B | 7,496 | 1,596 |
| キャピタル損益含み基礎利益 A + B | 15,849 | 155 |
| 臨時収益 | 3 | - |
| 再保険収入 | - | - |
| 危険準備金戻入額 | 3 | - |
| その他臨時収益 | - | - |
| 臨時費用 | 5,228 | 2,801 |
| 再保険料 | - | - |
| 危険準備金繰入額 | - | 173 |
| 個別貸倒引当金繰入額 | 5,228 | 2,523 |
| 特定海外債権引当勘定繰入額 | - | - |
| 貸付金償却 | - | 104 |
| その他臨時費用 | - | - |
| 臨時損益 C | 5,224 | 2,801 |
| 経常利益 A + B + C | 21,074 | 2,645 |

ソルベンシー・マージン比率

(単位:百万円)

| 項 目 | 2009年 3月期 | 2010年 3月期 |
|--|--------------|--------------|
| ソルベンシー・マージン総額 (A) | 56,258 | 57,208 |
| 資本金等 | 13,436 | 10,302 |
| 価格変動準備金 | 1,500 | 1,500 |
| 危険準備金 | 3,308 | 3,482 |
| 一般貸倒引当金 | 2,371 | 1,616 |
| 其他有価証券の評価差額×90%(マイナスの場合100%) | 7,867 | 1,378 |
| 土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%) | 1,192 | 362 |
| 全期チルメル式責任準備金相当額超過額 | 42,031 | 41,840 |
| 持込資本金等 | - | - |
| 負債性資本調達手段等 | - | - |
| 控除項目 | - | - |
| その他 | 283 | 205 |
| リスクの合計額 $\sqrt{(R_1+R_8)^2+(R_2+R_3+R_7)^2} + R_4$ (B) | 9,019 | 7,168 |
| 保険リスク相当額 R_1 | 2,512 | 2,439 |
| 第三分野保険の保険リスク相当額 R_8 | 803 | 1,049 |
| 予定利率リスク相当額 R_2 | 833 | 806 |
| 資産運用リスク相当額 R_3 | 7,187 | 5,130 |
| 経営管理リスク相当額 R_4 | 340 | 282 |
| 最低保証リスク相当額 R_7 | - | - |
| ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$ | 1,247.4% | 1,596.0% |

(注) 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条、第161条、第162条及び第190条、平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。「全期チルメル式責任準備金相当額超過額」は告示第50号第1条第3項第1号に基づいて算出しています。

用語解説

責任準備金

死亡率は総じて年齢とともに上昇しますが、保険料は通常一定額（平準払い）です。このため、契約の前半では、実際の保障に必要な額以上の金額が保険料として収入されます。保険期間の後半ではこの逆の現象が生じます。保険期間全体でのバランスをとるため、収入保険料の一部を将来の保険金・年金・給付金の支払いに備え、保険業法で保険種類ごとに積立が義務付けられている準備金のことです。

平準純保険料式責任準備金

平準化された保険料の内訳として、純保険料（保障に充てられる部分）も付加保険料（事業費に充てられる部分）も平準化して取り扱った場合の責任準備金をいいます。事業費のうち初年度に大きな割合を占める新契約費を保険料払込期間にわたって平準化するので、新規参入の会社にとっては負担が重い積立方式です。他に代表的なものとして、「チルメル式」がありますが、当社は平準純保険料式を採用しています。

標準責任準備金

平準純保険料式責任準備金において、計算の基になる予定利率、予定死亡率を金融庁告示等による率とした責任準備金を標準責任準備金といいます。なお、有配当商品の場合の標準責任準備金は、特殊な場合を除き平準純保険料式責任準備金と同一です。なお、当社は無配当商品についても、有配当商品の標準責任準備金と同じ水準で積み立てています。

危険準備金

将来の異常な支払いに備えるための準備金で、保険リスク（実際の保険事故の発生率が通常の予測を超えることによる危険）および予定利率リスク（責任準備金の算出の基礎となる予定利率を確保できなくなる危険）に備えるものとして、決算時に保険会社が積み立てるべき責任準備金の構成要素の一つです。

ソルベンシー・マージン比率

ソルベンシー（支払能力）・マージン（余裕）とは、大地震や株の大暴落等通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を保険会社が有しているかどうかを判断するための行政監督上の指標の一つです。具体的には資本勘定、価格変動準備金、危険準備金等の内部留保項目で構成されます。また、生命保険会社が有する諸リスク合計に1/2を乗じたものを分母とし、これら諸リスクに備えるためのバッファとしてのソルベンシー・マージンを分子としたものがソルベンシー・マージン比率です。

基礎利益

基礎利益とは、保険本業における期間損益を示す指標の一つです。

有価証券の売却益等を考慮しないフローの基礎的な収益の状況を示す指標で、経常利益からキャピタル損益、臨時損益を差し引くことによって算出されます。

キャピタル損益は、有価証券売却益や為替差益等から有価証券売却損、有価証券評価損、為替差損等を差し引き、臨時損益は、再保険収入や危険準備金戻入額等から再保険料、危険準備金繰入額等を差し引いて算出します。

実質純資産額

実質純資産額とは、有価証券や不動産の含み損益などを反映した「いわば時価ベースの資産の額の合計」から、価格変動準備金や危険準備金などの「資本性の高い負債をのぞいた負債の合計」を差し引いて算出するもので、行政監督上の指標の一つです。実質資産負債差額ともいいます。

エンベディッド・バリュー(EV)

生命保険会社の企業価値・業績を表す指標の一つで「保有契約の価値」（保有契約からもたらされる将来利益の現在価値）と「修正純資産」（企業の純資産価値）を合計したものです。

一般に生命保険契約は、契約を獲得してから会計上の利益が計上されるまでに時間がかかるため、ヨーロッパやカナダでは、損益計算書等法定の会計情報を補完するものとして、生命保険会社の企業価値を評価する指標の一つとして広く普及しています。